

特集：我々の教育システム情報学マップ：問いの体系化の共有に向けて

対話を生み出す教育システム情報学マップの姿を描く

近藤 伸彦*, 大崎 理乃**, 米谷 雄介***, 高橋 聡****

Map for Information and Systems in Education for Creating Dialogue

Nobuhiko KONDO*, Ayano OSAKI**, Yusuke KOMETANI***, Satoshi TAKAHASHI****

In this paper, we examined how a map for information and systems in education should be designed for users who are not engaged in research activities at JSiSE, such as those in business and industry, teachers in public education, researchers in other fields, and learners. We proposed several images of the map, assuming that the map would be drawn based on the users' interests. We also discussed the data structure that would enable the creation of the maps we proposed. Based on these ideas, we plan to develop maps that will promote dialogue to generate further questions by connecting research questions in this field to the interests of people other than JSiSE researchers.

キーワード：教育システム情報学マップ，学術的問い，対話，産学共創，教育実践，研究キーワード，学習者

1. JSiSEの「外側」にいる人に向けたマップ

1.1 プレカンファレンスの議論から

2022年8月の教育システム情報学会（以下、JSiSE）全国大会において教育システム情報学マップ作成ワーキンググループ（以下、WG）が企画・運営したプレカンファレンス『誰のための「教育システム情報学マップ」？—「問いの体系化」を軸に考える—』では、「誰のための」マップ—すなわちマップの対象者（ユーザ）を意識したうえで作成すべきマップのありかたを議論した。

本解説特集の扉にて述べられているように、マップのユーザとして想定される者を大きく分けたとき、

JSiSEにおいて研究活動をしている層（研究者や学生）と、それ以外の層（企業・産業界や、教員、他分野の研究者など）が想定できる⁽¹⁾。便宜的に前者をJSiSEの「内側」、後者をJSiSEの「外側」の層だとするとき、本稿の著者からなる本WGのサブグループ3では、本プレカンファレンスの議論に基づきつつ、「外側」にいるユーザから見るマップのありかたをより具体的に検討することとなった。すなわち、「外側」にいる人に本分野へ参入してもらうことにつながったり、本分野と他分野のつながりを説明したりするようなマップに関する議論を行い、マップのプロトタイプを作成することが本サブグループのミッションとなった。次節以降では、本サブグループにおけるここまでの議論

* 東京都立大学大学教育センター (University Education Center, Tokyo Metropolitan University)

** 武蔵野大学データサイエンス学部 (Faculty of Data Science, Musashino University)

*** 香川大学創造工学部/情報メディアセンター (Faculty of Engineering and Design, Kagawa University/Information Technology and Media Center)

**** 関東学院大学理工学部 (College of Science and Engineering, Kanto Gakuin University)